

佐久市佐久っと支援金事業 自己評価報告書

		評 価 日	令和6年 2月 22日
団 体 名	公益社団法人佐久青年会議所		
事 業 名	ココロオドルSAKU(地域交流事業)		
事業経費③	2,039,539 円	支援金額⑨	294,000 円

事業の目的・内容	地域の課題
	佐久地域は移住先として注目、教育移住等による子育て世代の関心も高い傾向にあります。しかし、移住者と地元住民が交流できる機会や場はまだまだ少ないと言えます。垣根を越えた佐久地域住民の協働により地域を牽引していこうという人材のボトムアップがなされていないのが現状です。
事業の活動実績	事業内容
	佐久地域に近年増加している移住者と、地元民との交流を目的として、佐久市市民交流ひろばに新しい佐久地域の街の理想像となるよう、「1日商店街」を設営し、持続可能な佐久地域を目指し、新たな人々が交流する機会を創出いたしました。

事業の活動実績	移住者と地元民が共につくりあげる1日限定商店街を開催しました。地域風土を活かし、移住者と地元民が連携することで、地域の新たな資源を創出していく機会を創出しました。商店街を大きく4つのエリアに分け、各エリアにて地域の魅力を各出店者の強みを生かして発信していただきました。
	【エリア別内容】 ○商店街エリア 飲食やワークショップを中心として、佐久地域の風土を生かす、また今後活かせる資源になるものを身近に感じていただけるよう、販売や体験型ブースを多く出展しました。 ○舞台エリア 佐久地域で芸術文化（踊りや絵画など）や、佐久地域で活躍するダンスユニットやアイドル、コーラスなどのサークル団体の方々の出演に加え、佐久地域各市町村を代表するゆるキャラにも、行政を通じてご協力いただき、来場者との新しい交流の場を創出することが出来ました。 ○バスケエリア 2023年、3人制女子プロバスケットボールチーム「SAKU REGION」が佐久市に誕生しました。構成メンバーの半数が移住者で、佐久地域に新しくできたプロスポーツチームです。スポーツを通じた新しい文化の発信として、シュートチャレンジなどのイベントやプロ選手とのバスケ対決なども行いました。 ○バルーンエリア 佐久のシンボルであるバルーンフェスティバルの実行委員メンバーである佐久熱気球クラブにご協力いただき、「熱気球体験」を行いました。佐久地域を代表する観光資源の一つを身近に感じていただくようにいたしました。



別記様式第5号（6の2関係）〔2枚目〕

事業の成果・効果	＜来場者アンケート＞ アンケート：「地域の新たな可能性を感じることができましたか」の質問に対して、「はい」と回答した方の割合を80%以上とする。 結果：会場の出入口でアンケートを行いました。来場者の回答は上記質問に対して100%「はい」の回答をいただきました。回答者は812人でしたが、ご家族での来場が多数であったため、1家族3名と計算し、来場者合計2436名といたしました。 当初の来場者目標は、2000名であったのに対して、2346名に来場いただいたことで、本事業の効果はあったと考えます。 ＜出展者アンケート＞ 出展者アンケート：「本事業を通じて移住者や地元民と新たなつながりをもつことができましたか」の質問に対して「はい」と回答した方の割合を100%とする。 結果：事業実施後にオンライン回答でアンケートを実施し、「はい」の回答が94.1%ありました。本事業実施後に出展者同士での移住者交流会の開催やビジネスマッチング、一般参加者が出展者のお店に訪問と、事業を通じた効果がありました。
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた 1 ☒ できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 自己評価を記入 金額の変更は多少ありましたが、事業目的達成のため実施できた。
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた 1 ☒ できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 自己評価を記入 ココロオドルSAKU事業名から1日商店街を設営する手法を取り、近未来の佐久地域での街の在り方を示すことが出来た。
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について 1 ほとんど同じ 2 多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由（2、3と答えた場合のみ） 別紙の通り
	その他、評価すべき点等 佐久地域の新しい課題を解決するため「交流」をテーマに初めて実施し、事業実施後も新しい交流が生まれ続けている。また1日限りでなく複数日開催要望も多かった。

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	今年度、ココロオドルSAKU（地域交流事業）を事業名とし、副題「ココロオドル商店街～移住者×地元民×佐久風土～」を実施しましたが、次回も開催して欲しいとの意見を多数いただいております。本当の狙いとしては、自然発生、能動的に今般のような事業を開催する環境づくりと考えています。当団体が実施したように、移住者を中心とした地域団体等へ移管も視野に入れながら、開催できる準備を各関係機関と共に協働してすすめるようにしていきたいと思っております。 今回のような事業を継続的に実施することで、移住者が佐久地域で活躍する発信の場や移住者がこれから地元民として活躍するように積極的に交流の機会を創出し、持続的な佐久地域を新しい風土の発掘、発信と共に活動を続けてまいります。
---------	--